婦人関係資料シリーズ No.1

調資 No.1

女世帯生活実態調査

第1次 ― 東京都

昭25

20

労働省婦人少年局

はしがき

戰後の社会的、経済的な変動により、多くの女性が、自らの生活のみならず、家族の生活をも支えて、何の準備もなく、けわしい世の中におしやられました。殊に未亡人、未帰還留守家族の情況は、社会問題として世人の関心をひき、その対策について論議されましたが、根據となる資料がなく、その必要が痛感されています。

この女世帯生活実態調査は、そうした資料の1つとするために行はれたもので、第1次は、1948年10月、東京都内の女世帯について試験的に実施され、既に1949年 6月に、謄写印刷をもつて発表したものですが、今回各方面の要望にこたえて、印刷に付しました。

なお、第2次調査は1949年10月関東の1都6縣において実施され、更に第3次は1950年10月、全国的に行う予定です。調査結果については順次発表しますが、今後の調査のために、各方面の御意見や御注意を頂ければ幸です。

1950年＿＿＿＿

勞働省婦人少年局

目　次

Ⅰ 調査の目的 …… 3

Ⅱ 調査世帯の抽出方法 …… 3

1 抽出率の決定 …… 3
2 調査世帯の選定 …… 3

Ⅲ 調査の方法 …… 3

1 調査事項 …… 3
2 調査機關 …… 3
3 調査の方法 …… 4
4 調査の時期 …… 4
5 調査表回收率 …… 4

Ⅳ 調査の結果 …… 4

1 女世帯の一般的狀態 …… 4

☆ 年令別にみた女世帯の種類 …… 5
☆ 夫と別れた時期 …… 5
☆ 夫の最後の職業 …… 6
☆ 年令別にみた本人の健康狀態 …… 6

2 仕事について …… 7

☆ 年令別にみた女世帯主の職業 …… 7
☆ 学歴別にみた仕事の有無 …… 8
☆ 一日の働く時間 …… 9
☆ 一週間の働く時間 …… 9
☆ 就職の手段 …… 9
☆ 就職の時期 …… 10
☆ 仕事の希望 …… 10
☆ 仕事の有無と過去における仕事の経驗 …… 12
☆ 過去の仕事 …… 12
☆ 過去の仕事を何故やめたか …… 12

3 特殊技能について …… 12

☆ 年令別にみた特殊技能 …… 12
☆ 学歴別にみた特殊技能 …… 13
☆ 特殊技能と仕事の有無 …… 14

4 組織への意識 …… 14

☆ 年令別にみた團體加入の有無 …… 14
☆ 年令別にみた組織への希望 …… 15

5 再婚について …… 15

☆ 年令別及び夫と別れた種類別にみた再婚の希望 …… 15

6 家族について …… 16

☆ 家族の有無 …… 16
☆ 年令別、家族数別にみた既婚者（死別、離婚、未歸還者家族のみ） …… 17
☆ 既婚者の家族構成 …… 17
☆ 年令別、家族数別にみた未婚者 …… 18
☆ 未婚世帯の家族構成 …… 18
☆ 家族の有無と仕事の有無 …… 19
☆ 留守の間誰が子供を世話するか …… 19
☆ 子供の世話をして貰うための費用 …… 20

7 社會施設 …… 20

☆ 社會施設 …… 20
☆ 現在の社會施設に対する満、不満 …… 21

8 住居 …… 21

☆ 住居 …… 21
☆ 同居世帯 …… 21
☆ 誰と共同生活をしているか …… 21
☆ 疊数と家族数 …… 22

9 家計費 …… 22

☆ 一カ月平均支出額 …… 23

I　調査の目的

終戰後の社会的、経済的條件の低下と共に、われわれの生活は益々困難の度を加えているが、その中にあつて男性の間に伍して、多くの女性が自ら生活を支えてゆくことを余儀なくされている。このなかには一個の人間としての自覚を持つて、自ら進んで独立の生計を営んでいる者もあるが、これ等独身婦人、未帰還者家族、未亡人等の女世帯のいづれの場合も苦しい生活であることが考えられる。これらの女性の生活を安定させ、地位を向上させることは、婦人解放のためにも、亦、社会不安の原因を取除くためにも重大な問題である。なかでも最も數の多いのは寡婦で、昭和二十三年五月現在の厚生省調でみても、その数は約 1,883,890 を算えるが、その後尚増加していると考えられる。その経済生活は支柱たる夫を失い、幼児をかゝえて一層困窮を極め、なかには女性としての自主性を失い、轉落の途をたどる者も見られる状態であるが、これらの女性が、明るく更生できる方策を考究するには、その根據となる資料を必要とする。本調査は、その一つの基礎資料を得ることを目的として東京都内の女世帯について試驗的に行つたものである。

II　調査世帯の抽出方法

1　抽出率の決定

都内二十三区のうち、葛飾区の基礎資料の入手がおくれたため、二十二区を対象にとることとした。総世帯数 1,066,786 のうち、婦人が世帯主であるものは 137,810 世帯で、その1％を任意抽出法によつて選出したものである。嚴密に調査の結果の正確度を高める立場からいえば抽出理論に從つてきまつてくるわけであるが、調査票を配布、回收する際の調査員の交通難や経費の点を考慮して、500 世帯を一組として、その1％五世帯づつを一群としてまとめて抽出することにした。

2　調査世帯の選定

各区役所出張所別に女世帯数をテーブルにし、それに通し番号をつけ、最初の 500 世帯のうちからくじで調査対象となるべき世帯をきめ、それから順に四世帯を抽出、都合五世帯を決定、その番号から順に 500 番目に当つた世帯を調査対象とするという工合に順次決定した。かく決定した場合、たとえその中に調査不能世帯や事故世帯があつた場合にも決定世帯を取替えることをせず、調査不能の理由をつけてそのまゝ回收した。

III　調査の方法

1　調査事項

本人の身分関係、夫についての事項、住居、職業、再婚の希望、家族、社会施設、家計費等について調査した。(巻末添附の調査票參照)

2　調査機關

調査の実施及び事務は労働省婦人少年局において扱い、調査員には婦人少年局婦人課職員、東京地方職員室職員及び婦人團體の有志と東大の学生を依嘱した。

3 調査の方法

調査員は、受持ちの区役所出張所保管の世帯カード中より該当女世帯を確認し、その家庭を訪問して調査票への記入を依頼し、不備な点を回收時に調査員が補足した。

4 調査の時期

昭和二十三年十月一日現在で調査した。但し收支の項目は前月（九月一カ月分）の平均である。

5 調査票回收率

調査対象として抽出された女世帯数は 1,375 世帯であつたが、調査不能で回收されたものが 264 世帯、回收不能一世帯であつた。調査不能の内訳は次の通りになつて居り、結局集計できたものは 1,110 世帯分である。

結婚した者	52	調査拒否	25
内 再婚	48	その他	115
初婚	4	所在不明	35
夫のある者	72	移轉	33
轉入不能	16	長期不在	46
名儀上の女世帯	4	死亡	1
その他	52		

Ⅳ 調査の結果

☆ 年齢別にみた女世帯の種類

調査総数を 100 として女世帯の種類別の率をとつてみると、夫に死別した者は 71 %で断然多く、離婚 12 %、未歸還者家族 3.6 %、未婚 4.4 %、その他 1.5%、不明 7.5% となつている。死別の者を戰爭によるものと病死による者とにわけてみると、戰死、戰災死は 191 名で死別の者の 24.2 %、病氣及び事故によつて夫と死別した者は 74 %、夫と死別した種類について答えなかつた者は 1.8 %であつた。これをさらに年令層によつて区別してみると、死別した者のうち戰爭によるものは、 20 代では 34 名でその年代の死別した者の 62 %を占め、 30 代では 47 %、 40 代は 15 %になり、 50 代になると僅かに 3 %となつて、年令が高くなるに從つて、戰爭のために夫を亡つた者の率は低くなつている。これにひきかえ、病死による者は 20 代では 33 %、 30 代では 50 %、 40 代 80 %、 50 代 95 %と逆に年をとるに從つて高くなつている。

第 1 表　　年齢別にみた女世帯の種類

項目 / 年齢	總数	夫と別れた種別											未婚	その他(ハ)	不明(ニ)
		死別						離婚	未歸還						
		小計	戰死	戰災死	病死	その他(イ)	不明(ロ)		小計	ソ聯	その他	不明			
20歳未満	2														2
20 — 24	42	8	2		5		1	3	2			2	13	1	15
25 — 29	111	47	31	1	13	1	1	15	13	3	1	9	14	4	18
30 — 34	144	99	52	2	43	3		15	11	3		8	4	1	14
35 — 39	197	135	53	3	74	2	3	30	7	2		5	11	2	12
40 — 49	323	251	26	11	200	8	6	39	6	1		5	6	5	16
50 — 59	161	141	2	2	134	2	1	12	1			1		3	4
60歳以上	114	97	2	2	90	1	2	12					1	2	2
不明	16	12	2		10			2	1			1			1
合計	1,110	790	170	21	568	17	14	128	41	9	1	31	49	18	84
%	100	71						12	3.6				4.4	1.5	7.5

（註）年齢はすべて數え年による
（イ）電車事故等平和時の事故によつて死別したもの
（ロ）死別の種類の不明のもの
（ハ）夫が疎開先のもの、仕事の都合上別居しているもの(長期出張中)、夫が病氣療養中あるいは不具のもの、夫の滯米中あるいは受刑中のものなど名儀上の女世帯となつているもの
（ニ）未婚、未亡人、未歸還などの別が不明のもの

☆ 夫と別れた時期

夫と別れた時期を死別の者について時期的並びに種類別に区別してみると、戰爭によるものは太平洋戰爭中が年平均 20 %で一番多く、病死によるものは戰後が 8 %で最高率を示している。

離婚者も病死者と同じく戰後に於て 10 %と最高率を示し、過去にさかのぼるに從い順に減少している。

第 2 表　　夫と別れた時期

夫と別れた種別 / 夫と別れた時期	總計		死別								離婚	
			小計		戰死 戰災死		病死		其他		不明	
昭和 6 年以前(滿洲事變以前)	82		67		0		67		0		15	
昭和 7 年 1 月～16年11月(滿洲事變 太平洋戰)	253	3%	215	3%	25	1%	187	3%	3	2%	38	3%
昭和16年12月～20年 8 月(太平洋戰中)	325	9%	297	10%	140	20%	155	7%	2	4%	28	6%
昭和 20 年 9 月以後(終戰後調査日まで)	206	7%	167	7%	17	3%	149	8%	1	2%	39	10%
不明	52		44		9		27		8		8	
計	918		790		191		585		14		128	

（註）（　）内の%は各種別合計を 100 として時期別の%を出し、それを更に年平均したものである。

☆ 夫の最後の職業

調査対象のうち、夫と死別したもの及び離婚したもの918名について夫の職業をしらべてみると、俸給生活者が独立営業の者よりも多く全体の 46 %を占めている。そのうちでも、会社員、官吏、軍人、軍属、教員などの常備職員が最も多く全体の 34 %である。常備労務者は主として工員である。

独立営業は 33 %、そのうち商業は全体の 13 %、工業8%、サーヴイス業5%となつている。商業には食料品店、洋品店、魚屋、雜貨、書籍文房具店、薬屋、化粧品店等あらゆる小賣商店がふくまれており、飲食店、料理店、喫茶、旅館、下宿屋、洗濯屋、理髮店などはサーヴイス業に入れた。工業は主に土木建築業で、機械工業、鉄工業が少数入つている。農業には純粹の農夫のほかに植木屋、草花栽培も含んでいる。自由業のうち多いのは醫師で、あとは画家、住職、浪曲師、華道師匠などである。

第 3 表　　夫の最後の職業

夫の最後の職業		調査數	%	夫の最後の職業	調査數	%
獨立の營者業	農業	15	2	商業	103	13
	漁業	2	1	自由業	19	3
	工業	87	8	其他	5	1
	サービス業	39	5			
勤人	常備職員	339	34	日傭勞務者	6	1
	常備勞務者	87	8	その他	26	3
無職		27	3			
不明	答えなかつた者	163	18			
	計				918(イ)	100

（註）（イ） 死別、離婚のものゝ合計

☆ 年齡別にみた本人の健康狀態

本人の健康狀態は、健康のもの 68.4 %で、大体としてよい方であるということができる。

第 4 表　　年齡別に見た本人の健康狀態

年齡＼項目	健康狀態					
	合計	健康	結核	病弱	不具	不明
20歳未滿	2	2				
20 —— 24	42	31	4	1		6
25 —— 29	111	87		10		14
30 —— 34	144	101	2	25		17
35 —— 39	197	135	3	39		20
40 —— 49	323	217	2	57	1	46
50 —— 59	161	113		36		12
60歳以上	114	67		31	1	15
不明	16	8	1	2		5
總數	1,110	759	10	201	2	138
%	100%	68.4%	19.2%			12.4%

☆ 年齢別にみた女世帯主の職業

第五表は世帯主となつて一家を支えてゆかなければならない婦人たちが、その生活を維持するためにどんな仕事についているかを職業の種類別に、また年令別にみたものである。仕事のあるものと、

第 5 表　　年齢別にみた女世帯主の職業

項目＼年齢			20歳未満	20—24	25—29	30—34	35—39	40—49	50—59	60以上	不明	合計	%	
調査總數			2	42	111	144	197	323	161	114	16	1,110		100%
仕事のあるもの	小計		2	35	67	83	129	169	50	28	10	573	100%	
	通勤	小計		26	45	60	81	99	15	10	7	343		
		事務		11	13	15	15	20	1		4	79		
		タイプ		1	4	2	2					9		
		電話その他の技術		3	4	1	8	3				19	60%	
		教師		1	2	4	3	4	2	1		17		
		和洋裁		3	3	9	6	10				31		
		雑役			1	9	12	18	4	5		49		
		その他(a)		7	18	20	35	44	8	4	3	139	(イ)	51.6%
	住込	小計	2	5	7	5	12	11	9	5		56		
		寮母					1	1	3			5		
		留守番				2	2	2	1			7	10%	
		女中		1	3	2	1		2			9		
		その他	2	4	4	1	8	8	4	4		35		
	独立營業	小計		4	15	18	36	59	26	13	3	174		
		洋裁店		1	4	7	9	10	4	1		36		
		小賣店		1	2	4	13	21	6	3		50	30%	
		飲食店				2	4	2	3	1		12		
		その他		2	9	5	10	26	13	8	3	76		
	仕事がありてさらに副業をしているもの	小計		1	2	2	8	15	3	1	2	34		
		和洋裁		1	1		2	4				8		
		各種教授				1	1	1	1			4		
		内職					2	3			1	6		
		その他			1	1	3	7	2	1	1	16		
仕事のないもの	小計			7	44	61	68	154	111	86	6	537	100%	
	仕事がなく内職しているもの	小計			8	18	21	43	11	14		115		
		和洋裁			3	8	9	20	4	2		46		
		各種教授						1		1		2	21%	48.4%
		内職			3	7	9	11	4			34		
		その他			2	3	3	11	3	11		33		
	仕事も内職もしていないもの			7	36	43	47	111	100	72	6	422	79%	

(イ) 家政婦 8 名、炊事婦 7 名、看護婦 8 名、近所の家の手傳は 11 名。
其の他雑役的仕事のものを含む。

ないものとを大別すると、仕事のあるものは調査総数 1,110 名のうち 573 名 (51.6%)、ないもの 537 名 (48.4%) でほゞ半々である。仕事の種類は種々雑多にわかれているが、仕事をもつもの 60 %はそれぞれの勤先に通つている。洋裁店、小賣店、飲食店など自分で店をもつている者は 30 %、女中、留守番、寮母など住込みのものは 10 %であつた。仕事をもちながら、さらに副業を持つているものは、仕事を持つものゝ 10 %であつた。仕事の種類を年令別にみると、事務員の率は 20—24 才代に最も高く、その年令層の仕事を持つものの 31.4 %、和洋裁の率は 30 才、40 才代が他の年代よりも高く、雑役においては 60 才以上が最も高率を示している。仕事のないものゝうち内職をしているものは仕事のないものゝ 21 %、全々仕事も内職もしていないものは 422 名で 79 %、いゝかえれば全体の 38 %に当つている。しかし、これらの仕事も内職もしていないものの 68 %強は 40 才以上のものであり、その健康状態や家族の欄についてみれば、病弱や扶養家族が多くて働けないもの、子供が大きくなつていて働いているものなどで、何によつて生活しているかを收入の項に記入されたところから判断すると、資産処分や親戚知人よりの援助あるいは國家の補助によつているように思われる。

☆ 學歴別にみた仕事の有無

女世帯主の学歴について率をとつてみると、小学校卒業者(中退の者を含む、以下同じ) は 343 名で調査総数の 30.9 %に当り、高等小学校卒業者は 25.3 %、女学校卒業者 32.1 %、專門学校卒業者 5.2 %、大学卒業者 0.6 %、不明 5.9 %となつていて、小学校及び高等小学校卒業程度の者が全体の半数以上 (56.2 %) を占めている。これをさらに仕事の有無との関係についてみるならば小学校卒業者 (中退を含む、以下同じ) の場合は 343 名中仕事をもつ者 145 名で 42 %、高小卒業者、高女卒業者は共に 56 %、專門学校卒業者は 67 %で、上級学校卒業者ほど仕事をもつ者の率は高くなつている。たゞ、大学卒業者は全体で僅か七名しかないので、これによつて率を云々するのは無理であろう。

第 6 表　　學歴別にみた仕事の有無

學歴		總數	%	職業			
				有	%	無	%
小	卒	313	100	136	42.3	177	57.7
	退	30		9		21	
高	卒	272	100	152	56.2	120	43.8
	退	9		6		3	
女	卒	324	100	180	55.9	144	44.1
	退	32		19		13	
專	卒	52	100	35	67.2	17	32.8
	退	6		4		2	
大	卒	7	100	2	28.6	5	71.4
	退	0		0		0	
不明		65	100	30	46.1	35	53.9
計		1,110	100	573	51,6	537	48,4

☆ 一日の働く時間

一日の働く時間を細分してみると、5時間以下から 12 時間以上のもの、なかには 16 時間などという極端なものもあつた。仕事の種類によつて働く時間をしらべてみると、通つている者のなかでも事務、タイプ、雑役のものに8時間勤務のものが多く、家政婦、炊事婦などに 14 時間などという勤務時間の長いものが多かつた。家事手傳は近所の忙しい家や農家の手傳いをしているものであるが、働く時間は一定せず、3、4時間のものもあれば 10 時間など長いものもあつた。自分で店を持つている者のなかには8時間と一定しているものもあつたが、多くは不定で働く時間の長いものが多い。働く時間の短いものゝなかには、ダンサー、芸者、和洋裁を内職的にやつているものなどがあつた。

☆ 一週間の働く時間

一週間中の働く時間を第8表についてみると 43 時間から 48 時間働いている者は、仕事を持つ者 573 名中 135 名で 23.6% であつた。これらの働く婦人のなかには一週間のうち何日働くというもの、働く時間の不定のもの、農繁期だけ手傳うというものもあり、不明の数が多くなつている。

第 7 表

一日の働く時間

實動時間	調査数	%
5時間以下	44	
6 時 間	31	21.7
7 時 間	50	
8 時 間	215	37.5
9 時 間	23	
10 時 間	57	21.1
11 時 間	6	
12時間以上	31	
不 明	116	19.7
計	573(イ)	100

(イ) 仕事を持つ者の合計

第 8 表

一週間の働く時間

實動時間	調査数	%
30時間以下	37	6.5
31 — 36 時間	27	4.7
37 — 42 時間	61	10.6
43 — 48 時間	135	23.6
49 — 54 時間	34	5.9
55 — 60 時間	33	5.8
60時間以上	51	8.9
不 明	195	34.0
計	573(イ)	100

(イ) 仕事を持つ者の合計

☆ 就職の手段

現在の仕事をどのようにしてみつけたかを第9表によつてみると、親、兄弟、知人など縁故をたよ

つて仕事をみつけて貰つた者が最も多く、仕事を持つ者の 46.7%を占め、新聞廣告や、はり紙募集によつた者3%、職業安定所 2.3%、その他 14.3%、不明 33.7%となつている。その他のなかには、区役所民生課などの世話による者、夫の仕事を継続している者、自分で仕事をはじめた者などが含まれている。親、兄弟、親戚、知人などの手づるで就職した者の率が 46.7%にも上つていることは、日本の家族制度が就職といかに密接な関係を持つているかを示しており、同時に職業安定所を通ずる率の低さの一つの理由をいえると思われる。

☆ 就職の時期

何時から今の仕事をしているかを仕事をもつもの 573 名について昭和 17 年から 1 年毎に区切つてしらべてみると、終戰後の昭和 21 年以後仕事を持ちはじめたものが急に増加し、以後毎年増加の傾向を保つている。

第 9 表

就職の手段

就職の手段	調査数	%
新聞廣告	13	3.0
はり紙募集	4	
知人の紹介	268(イ)	46.7
職業安定所	13	2.3
その他	82	14.3
不明	193	33.7
計	573(ロ)	100

(イ) 親、兄弟、親戚を含む
(ロ) 仕事を持つ者の合計

第 10 表

就職の時期

就職の時期	調査数	%
昭和 17 年以前	112	19.6
昭和 18 年	12	2.1
昭和 19 年	14	2.5
昭和 20 年	52	9.1
昭和 21 年	100	17.3
昭和 22 年	117	20.5
昭和 23 年	123	21.4
不明	43	7.5
計	573(イ)	100

(イ) 仕事を持つ者の合計

☆ 仕事の希望

仕事の希望を仕事のある者 573 名についてみると、現在のと別にさらに仕事を望む者は、仕事を持つもの〻 35 %、望まない者は 49 %となつている。これを年令層についてみると、比較的若いもの及び年寄つた年令層では現在の仕事のほかには望まないもの〻率が高いのであるが、中年層の 35 才 — 39 才代に望む方が高くなつている。この中年層の者は扶養家族も多く、しかも養育中で働いても働いてもなお足りず、現在の仕事のほかに手内職でも何でも望むというのが多かつた。望んでいる仕事の種類は手内職、家でできるような仕事というのが多い。

仕事のない者について仕事の希望をみると、50代 60代を除き、仕事を望む率は非常に高くなつている。

第 11 表

年齢別にみた仕事の希望

項目				20歳未満	20—24	25—29	30—34	35—39	40—49	50—59	60歳以上	不明	總数	%
仕事の希望	仕事のある人	合計		2	35	67	83	129	169	50	28	10	573	% 100
		現在のと別に仕事を望む	小計		10	28	27	59	58	13	6	2	203	
			事務		1	3		2					6	
			タイプ					1					1	
			和洋裁					1	3				4	35.4
			生花、茶湯								1		1	
			手内職		1		2	8	7	2			20	
			その他		8	25	25	47	48	11	5	2	171	
		望まない		1	19	31	36	58	86	25	15	8	279	48.7
		不明		1	6	8	20	12	25	12	7		91	15.9
	仕事のない人	合計			7	44	61	68	154	111	86	6	537	100
		仕事をほしいと思う	小計		5	26	47	48	93	46	23	4	292	
			事務			3	2	2	2			1	10	
			タイプ											
			和洋裁		1	3	2	1	5	1			13	54.4
			生花、茶湯											
			手内職		1	1	3	6	13	8	4	2	38	
			その他		3	19	40	39	73	37	19	1	231	
		思わない			2	9	8	15	45	43	45	2	169	31.5
		不明				9	6	5	16	22	18		76	14.1

第 12 表、13 表及び 14 表は、過去の仕事についてみたものであるが、調査総数のうち過去に仕事についた経験のあるものは 343 名で 31 %、ないものは 767 名で 69 %である。これをさらに、現在、仕事を持つもの、持たないものをそれぞれ 100 として過去における仕事の経験の有無の百分比をみると、現在仕事を持つものゝうち 32 %は過去に仕事を持つた経験のあるものである。

過去に仕事についた経験がありながら現在仕事を持つていないものは、仕事のないもの丶29 %になつている。

第 12 表

仕事の有無と過去における仕事の經驗

過去の仕事 / 現在の仕事	調査總數		過去における仕事の經驗			
			あり		なし	
	實數	%	數	%	數	%
あり	573	100	185	32	388	68
なし	537	100	158	29	379	71
計	1,110	100	343	31	767	69

第 13 表

過去の仕事

職業別	調査數	%
事務員	63	18.4
特殊技能勤人	48	14.0
工員	55	16.0
商人	59	17.2
雜役	13	3.8
その他	83	24.2
不明	22	6.4
計	343(イ)	100

(イ) 過去に仕事を持つた經驗のあるものの合計

(第14表)

過去の仕事を何故止めたか

離職理由別	調査數	%
結婚	42	12.3
戰災	28	8.2
病氣	44	12.8
何となくいやで	2	43.7
都合が悪い	9	
その他	139	
不明	79	23.0
計	343(イ)	100

(イ) 過去に仕事を持つた經驗のあるもの丶合計

☆ 年齢別にみた特殊技能

特殊技能を身につけている者は調査総数の 1,110 名のうち 175 名で、僅か 16 %にすぎない。これを特殊技能の種類別及び年令別にみると、和洋裁は各年令層に見ることが出来るが、事務的なものは若い層に、教養的のものは中年後に多く現われている。

その他の中には看護婦、産婆、美容師、速記者、あみもの、料理等、極めて少數しかないものを含めた。

第15表　年齢別にみた特殊技能

特殊技能 / 年齢	調査数	特殊技能のあるもの 小計	タイプ	そろばん	電話	和洋裁	生茶花湯	音樂	語學	その他	ないもの 特殊技能の
20歳未満	2	1								1	1
20 —— 24	42	14	6			4		1		3	28
25 —— 29	111	21	3	2	3	7				6	90
30 —— 34	144	28	6			15			1	6	116
35 —— 39	197	28	3	2	2	12	1		1	7	169
40 —— 49	323	53	1		1	29		3		19	270
50 —— 59	161	16				3	2	1	1	9	145
60 以上	114	14				5	5		1	3	100
不明	16										16
計	1,110	175	19	4	6	75	8	5	4	54	935
%	100	16									84

第16表　學歴別にみた特殊技能

學歴		調査数	特殊技能のあるもの 小計	タイプ	和洋裁	生茶花湯	語學	音樂	その他	ないもの 特殊技能の
小	卒	313	27		10	3		2	12	286
	退	30	3		1				2	27
高	卒	272	44	3	24	2		1	14	228
	退	9	2						2	7
女	卒	325	64	14	31	2		1	16	261
	退	32	6		2				4	26
專	卒	51	18	1	4	1	2		10	33
	退	6	4		2		1		1	2
大	卒	7	2	1			1			5
	退									
不明		65	5		1			1	3	60
計		1,110	175	19	75	8	4	5	64	935
%		100	15.8	1.7	6.7	0.7	0.4	0.5	5.8	84.2

第 17 表

特殊技能と仕事の有無

特殊技能 / 現在の仕事	調査数	特殊技能のあるもの 小計	%	タイプ	そろばん	電話	和洋裁	生花茶花湯	音樂	語學	その他	特殊技能のない者
あり	573	118	67.4	16	2	6	39	2	4	2	47	455
なし	537	57	32.6	3	2	0	36	6	1	2	7	480
計	1,110	175	100	19	4	6	75	8	5	4	54	935

☆ 年齢別にみた團體加入の有無

調査の対象となつた 1,110 名のうち、何等かの團体に加入していた者は 180 名で 16 %、この内 20 代の者は 27 名で團体加入者の 15 %を占め、 30 代は 62 名で 34.4%となつているが、團体に加入していない者のうち 20 代の占める率は 13.8%、 30 代では 30 %となつて、若い層では團体加入者の率の方が高いのであるが、 50 代、 60 代になると逆にこの率は低くなつている。

第 18 表

年齢別にみた團體加入の有無

年齢 / 項目	團體に入つている者 小計	%	政黨	勞働組合	學校(イ)	婦人團體	未亡人團體	協同組合	合作社	その他	團體に入つていない者 小計	%
20歳未滿											2	13.8
20——24	10	15.0		5	2	3					32	
25——29	17			10		2	1	2		2	94	
30——34	24	34.4	1	11	4	1	1	3		3	120	30.0
35——39	38			21	4	4	1	7		1	159	
40——49	54	30.0	1	20	8	8	1	11		5	269	28.9
50——59	25	13.9		3	2	9		5		6	136	14.6
60歳以上	10	5.6		3	1	1		2	1	2	104	11.2
不明	2	1.1		2							14	1.5
計	180	100	2	75	21	28	4	30	1	19	930	100
100%	16.2										83.8	

(イ) 母の會、父兄會、P.T.A等

☆ 年齢別にみた組織への希望

女性特に未亡人達が横に連なる互助組織を持ちたいと希望しているかの点については総数の約半数 49 %がそれを希望し、必要ないと考えるものは 11 %にしか過ぎない。年令層からみれば 30 代の者が一番希望していて 60 %に近く、それから前後に順に少なくなつている。

第 19 表

年齢別にみた組織の希望

項目 / 年齢	組織の希望							
	計	%	有		無		不明	
20 歳未満	2	100					2	100%
20 —— 24	40	100	15	38%	3	8%	22	54%
25 —— 29	106	100	48	45%	12	11%	46	44%
30 —— 34	145	100	85	59%	12	8%	48	34%
35 —— 39	196	100	113	58%	22	11%	61	31%
40 —— 49	333	100	157	47%	40	12%	136	41%
50 —— 59	165	100	76	46%	21	13%	68	41%
60 歳以上	107	100	40	37%	10	9%	57	54%
不明	16	100	6	38%	2	13%	8	49%
總數	1,110		540		122		448	
%	100%		49%		11%		40%	

☆ 年齢別及び夫と別れた種類別にみた再婚の希望

再婚の希望を夫と別れた種類別に率をとつてみると、夫に死別れた者のうち再婚を希望している者は 76 名で死別者総数の約 10 %である。しかしこれをさらに年令層についてみると、60 才、50 才代では、その率は非常に低いのであるが、20 — 24 才代及び 25 — 29 才代は共に 38 %、30 — 34 才代は 23 %、35 — 39 才代では 12 %となつて、若い者ほど再婚希望の率は高くなつている。再婚を望まない者のなかには、婚家の親がいるため再婚はできないとはつきり記入した者もあり、これら再婚の数字については、日本の家族制度や日本婦人のこの問題回答に対する心理的作用なども考慮する必要がある。このことは、不明の数字がこの項には特に多かつたことからも言えると思われる。

夫と離婚した者のうちで再婚を希望している者は、全体の数字をとつてみても 20.3%で、死別した者の再婚希望の率よりもずつと高くなつている。

第 20 表　　年齢別及び夫と別れた種類別にみた再婚の希望

項目 / 年齢	夫に死別した者								夫と離婚した者							
	小計	再婚希望あり	再婚希望なし	不明	% 小計	% 再婚希望あり	% 再婚希望なし	% 不明	小計	再婚希望あり	再婚希望なし	不明	% 小計	% 再婚希望あり	% 再婚希望なし	% 不明
20歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20 — 24	8	3	4	1	100	37.5	50.0	12.5	3	1	2	0	100	33.3	66.7	0
25 — 29	47	18	20	9	100	38.2	42.5	19.3	15	4	9	2	100	26.6	60.1	13.3
30 — 34	99	23	62	14	100	23.0	62.6	14.4	15	5	5	5	100	33.3	33.3	33.3
35 — 39	135	16	101	18	100	12.0	74.8	13.2	30	8	19	3	100	26.6	63.4	10.0
40 — 49	251	10	216	25	100	4.0	86.0	10.0	39	7	28	4	100	17.9	71.7	10.4
50 — 59	141	2	123	16	100	1.4	86.8	11.8	12	0	11	1	100	0	91.7	8.3
60歳以上	97	2	77	18	100	2.0	79.4	18.6	12	1	10	1	100	8.3	83.4	8.3
不明	12	2	5	5	100	16.8	41.6	41.6	2	0	1	1	100	0	50.0	50.0
計	790	76	608	106	100	9.6	76.9	13.5	128	26	85	17	100	20.3	66.4	13.3

☆ 家族の有無

女世帯主は大体何人の家族と暮しているか一世帯当りの平均人員をとつてみると、2.52 人となる。調査総数 1,110 名のうち一人暮しの者は 345 名で 32 %、家族一人の者は 290 名で 26 %と、この率は家族数の多くなるに従つて低くなつている。

第 21 表　　家族の有無

家族数	調査数	%
0 人	345	32
1 人	290	26
2 人	207	18
3 人	142	13
4 人	79	7
5 人	34	3
6 人	12	1
7 人	1	0*
計	1,110	100
一世帯當り平均人員	2.52 人	

* 1% 未満

☆ 年齢別、家族數別にみた既婚者（死別、離婚、未歸還者家族のみ）

女世帶主の約8割6分を占める既婚者（死別、離婚、未歸還者家族）959人についてその家族數をみると、家族のない者は262名で27.3%、家族一人の者26.3%、二人の者20%、三人の者14.4%、四人の者7.6%となり一世帶当りの平均世帶人員は26.4人である。又家族數別に一番頻度の高い世帶主の年令層をみると家族一人、二人、三人の者はいづれも30代に、四人の者は40代となつている。

第22表　年齢別、家族數別にみた既婚者（死別、離婚、未歸還者家族のみ）

年齢	家族員數									
	總數	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	%
20—29	88	38	33	11	4	1	1			9.2
30—39	297	63	77	71	52	20	11	3		30.9
40—49	296	44	74	67	46	37	20	7	1	30.9
50—59	154	54	42	26	22	9		1		16.0
60以上	109	63	22	11	7	5		1		11.4
不明	15		4	6	4	1				1.6
計	959	262	252	192	135	73	32	12	1	100
%	100	27.3	26.3	20.0	14.1	7.6	33	1.3	0.1	

☆ 既婚者の家族構成

既婚者959名中家族のあるもの765人についてその家族1,579人（勤務のかたわら專門学校在学中の者7名を含む）を年令別に見れば、小学校在学中の子供は1,579人の25.2%にあたり、これについて勤務をもつもの20,5%、中学校在学中の子供12.0%にあたつている。又、7才以下の子供の中一番多いのは6才のもので4.3%あり、6才の子供の世帶主を年令層よりみると、30才代のものが最も多く44人である。又、世帶主の年令層別に家族構成をみると1,579人の41%が40才代の世帶主をもつている。これについで30才代の世帶主が33.3%になつている。

第23表　既婚者の家族構成（死別、離婚、未歸還者家族）

女世帶主の年齢	家族構成																					
	小計	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	小	中	高	專	大	技	勤務	無	親	姉弟	孫	親戚	不明	%
20—29	75	3	8	8	6	12	7	7	9	3	1				1		7	3				4.8
30—39	525	6	15	8	18	36	44	32	219	58	11	1			25	10	31	10		1		33.3
40—49	649	1	1	2	10	10	13	14	148	101	55	19	18	2	165	42	35	3	3	6	1	41.0
50—59	206					1	1		11	22	16	9	6	3	98	21	5	1	8	4		13.0
60以上	92						1		3	2	1	2	3	1	33	14		2	26	4		5.8
不明	32			1	1	2	1	2	8	4	2		1		2	1	3	2			2	2.1
計	(イ) 1,597	10	24	19	35	61	67	55	398	190	86	31	28	6	324	88	81	21	37	15	3	100
%	100	0.6	1.5	1.2	2.2	3.9	4.3	3.5	25.2	12.0	5.5	2.0	1.8	0.4	20.5	5.6	5.1	1.3	2.3	0.9	0.2	

註（イ）勤務のかたわら專門學校在學中の者7名を含む

☆ 年齢別、家族數別にみた未婚者

未婚者で世帶主となつている者は 49 名で全体の 4.4% であるがこれらの未婚者についてその家族數をみると、家族のあるものは 31 %で、約7割の者は家族を持たず一人暮しをしている。殊に 24 才以下の者は83.4%で一番多くなつている。また家族數は3人以上は少い。

第 24 表　　年齢別、家族數別にみた未婚者

年齢	未婚者數	家族				
		0 人	1 人	2 人	3 人	5 人
20歳未滿						
20 —— 24	12	10	1		1	
25 —— 29	15	10	2	3		
30 —— 34	4	3	1			
35 —— 39	11	7	3	1		
40 —— 49	6	3	2			1
50 —— 59						
60歳以上	1	1				
不明						
總數	49	34	9	4	1	1
%	100%	69%	19%	8%	2%	2%

☆ 未婚世帶の家族構成

未婚者 49 人中家族のあるものは 15 人であるが、その家族 25 人の内譯は妹 32 %、母 28 %、父 12 %にあたつている。又 25 人のうち大学に行つているもの 1 人、女学校 1 人、幼稚園 1 人、勤務 7 人である。

第 25 表　　未婚世帶の家族構成

未婚者女世帶主の年齢	家族構成													
	小計	父	母	妹	弟	養女	養子	養子ノ嫁	孫	姪	大學	女學校	幼稚園	勤務
—29歳	12	3	3	6								1		5
30 — 39	6		2	2	1	1					1			1
40 — 49	7		2				1	1	2	1			1	1
計	25	3	7	8	1	1	1	1	2	1	1	1	1	7
%	100%	12%	28%	32%	4%	4%	4%	4%	8%	4%				

☆ 家族の有無と仕事の有無

調査総数 1,110 名のうち仕事のある者は 573 名で 52% であることは前に述べた通りであるが、これを家族との関連においてみると、家族がなくて仕事のある者は 194 名で家族のない者 345 名に対し 56.2% に当つている。たゞこゝでいう家族とは幼児のみを指すのではなく、大きくなつて勤務のかたわら夜学に学び母親を助けている者も含まれているので、家族の多少と仕事の有無との率は、はつきり出ていない。

第 26 表

家族の有無と仕事の有無

仕事の有無 / 家族数	調査数	%	仕事の有る者		仕事のない者	
			實数	%	實数	%
0 人	345	100	194	56.2	151	43.8
1 人	290	100	147	50.7	143	49.3
2 人	207	100	108	52.2	99	47.8
3 人	142	100	68	47.9	74	52.1
4 人	79	100	33	41.8	46	58.2
5 人	34	100	18	48.9	16	51.1
6 人	12		5		7	
7 人	1		0		1	
計	1,110	100	573	51.6	537	48.4

☆ 留守の間誰が子供を世話するか

女世帯主が仕事に出るとき、その留守の間誰が子供を世話するかについてみると、回答者 129 名中社会施設を利用しているものは 14.7%、親、兄弟、姉妹に世話してもらう者は 66.6%、親戚、友人、知人合せて 18.7% となつて、幼稚園、托兒所などの社会施設がまだ進歩していない今日、大部分の者が親、兄弟、姉妹に子供の世話を托していることがわかる。

第 27 表

留守の間子供を誰が世話するか

種類	親	兄弟	姉妹	親戚	友人	知人	社会施設	計
調査数	63	3	20	17	2	5	11	129
	48.8%	2.3%	15.5%	13.2%	1.6%	3.9%	14.7%	100%

第 28 表

子供の世話をして貰うための費用の有無

費用		調査數	費用	調査數
費用のかゝる時	100 圓以下	4	1,000 圓以下	3
	200 〃	7	1,100 〃	
	300 〃	5	1,200 〃	
	400 〃		1,300 〃	
	500 〃	5	1,400 〃	
	600 〃		1,500 〃	1
	700 〃		1,500 圓以上	3
	800 〃			
	900 〃	2	小計	30
費用がかゝらない				99
計				129

第 29 表

社會施設

社會施設の種類	近所にある施設 調査數	利用している施設	希望する施設
1 養老院	12		9
2 感化院			1
3 乳兒院	9		12
4 保育所	19	11	8
5 母子寮	14	5	2
6 弱い子供の保護所	1		4
7 不良の子供の保護所		1	
8 浮浪兒收容所	4		1
9 診療所	82	17	43
10 傳染病院	15		1
11 療養所（結核）	7	1	1
12 精神病療養所	9	1	
13 產院（公立）	22		
14 授產所	51		8
15 簡易宿泊所	14		
16 引揚戰災者寮	18	2	1
17 公益質屋	24		
18 その他	4	9	28
計	305	47	119

第 30 表

現在の社會施設に對する滿不滿

小計	滿足	不滿足
78	10	68
100%	13	87

第 31 表

住居

住居		調査數	%
獨立家屋に住んでいるもの(含長屋)	自己所有	276	24.8
	借家	282	25.4
	假小屋	40	3.6
	壕舍	3	0.3
	小計	601	54.1
集團生活のもの	引揚者收容所	8	0.7
	戰災寮	9	0.8
	母子寮	5	0.5
	寄宿舍	30	2.7
	小計	52	4.7
間借のもの	アパート	90	8.1
	部屋借	324	29.2
	小計	414	37.3
不明		43	3.9
合計		1,110	100

第 32 表

同居世帶數

	同居世帶數					
	0 世帶	1 世帶	2 世帶	3 世帶	4 世帶	5 世帶以上
自己所有	178	76	16	4		2
借家	184	72	23	3		
假小屋	34	4	1	1		
壕舍	1	2				
計	397	154	40	8		2

第 33 表

誰と共同生活をしているか

種類	調査數	%
親	101	39.0
兄弟	64	
姉妹	62	
親戚	123	21.1
友人	20	39.9
知人	82	
他人	130	
計	532	100

☆ 疊數と家族數

疊數と家族の表について見ると家族のないものは総数 1,110 に対して 32 %、家族1人のもの 26 %、2人のもの 18 %、3人のもの 15 %、4人のもの7%、5人のもの3%、6人のもの1%となつて居り、疊数から見て頻度の一番高いものについて見ると、家族のないもの7疊以内で 27 %、1人のもの7疊以内で 23 %、2人のもの7疊以内で 24 %、3人のものは 15 疊以内で 24 %に当つている。

第 34 表

疊　數　と　族　家　數

疊　數	調査數	扶養家族							
		0 人	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人	7 人
3疊以内	106	43	34	12	13	4			
5 〃	169	75	47	23	11	11	1	1	
7 〃	255	94	67	50	18	16	7	3	
10 〃	173	33	43	40	29	18	9	1	
15 〃	178	40	42	37	35	12	8	3	1
20 〃	73	14	13	17	15	9	4	1	
25 〃	39	7	14	7	4	5	2		
30 〃	17	3	5	6	3				
31疊以上	23	3	9	3	3	1	2	2	
不　明	77	33	16	12	11	3	1	1	
計	1,110	345	290	207	142	79	34	12	1

☆ 1ケ月の平均支出額

最後に女世帯はどのような暮しを立てているであらうか。1ケ月の支出額についてしらべてみると第35表に示すように調査の前月、即ち昭和23年9月の女世帯の1ケ月の平均総支出額は ¥5,768.90 で平均世帯人員は 2.6 人となつている。このうち食料費は ¥3,528.43 で総支出額の 61 %を占め、被服費は ¥225.59 で4%、光熱費は ¥461.63 で8%、住居費 ¥142.93 で2%、教育費、文化費、税金等を含む雑費は ¥1,410.32 で 25 %となつている。これを支出階級別にみると調査世帯数 737 世帯のうち 34 %を占める 252 世帯が 3,000 円及び 4,000 円未満の暮しを立てており、64 %の世帯が平均以下即ち 6,000 円未満の階級に属している。平均世帯人員は支出階級の低くなるにつれて減少しており、最底の 3,000 円未満の階級では 1.73 人となつている。

第 35 表

1 カ月平均支出金額調（昭和23年9月）

支出階級 / 調査世帯数 / 平均世帯人員 / 項目	總數	圓 3,000 未滿	圓 4,000 未滿	圓 5,000 未滿	圓 6,000 未滿	圓 7,000 未滿	圓 8,000 未滿	圓 9,000 未滿	圓 10,000 未滿	圓 10,000 以上
調査世帯數	737	125	127	108	108	78	50	43	24	74
平均世帯人員	人 2.60	人 1.73	人 1.90	人 2.55	人 2.73	人 2.90	人 3.36	人 3.30	人 3.25	人 3.76
	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
主食 配給	926.46	497.51	694.97	830.05	887.88	126.20	1,239.23	1,131.81	1,325.25	1,574,77
主食 追加	934.53	268.02	484.96	774.64	766.62	1,094.10	1,239.20	1,577.93	1,576.25	2,354.36
副食 配給	540.81	268.27	370.70	511.23	588.68	484.09	654.80	768.37	793.96	1,034.67
副食 追加	784.47	204.42	438.57	516.20	767.68	897.19	953.70	1,319.88	1,259.58	2,075.61
調味料 配給	125.84	67.50	93.32	119.56	140.86	144.40	159.94	150.58	182.92	194.63
調味料 追加	87.20	14.52	41.18	38.84	51.53	110.06	107.80	124.58	199.17	275.00
嗜好品	129.12	38.16	61.38	97.50	135.19	96.85	149.04	226.09	193.13	383.62
燃料	284.14	134.34	214.94	240.14	222.48	331.82	397.60	357.79	565.04	549.32
ガス	55.53	22.72	37.61	52.18	59.87	53.92	74.90	80.14	69.08	110.16
水道	45.41	26.90	33.87	38.60	48.19	43.40	70.70	54.16	66.96	75.28
電燈	121.96	66.94	81.46	102.81	116.51	145.29	201.62	133.23	175.67	217.88
衞生	120.02	42.30	91.87	105.60	119.31	130.26	198.84	184.91	64.50	237.93
教育費	265.24	34.27	89.96	167.35	220.05	301.67	434.04	511.67	443.75	811.55
文化費	125.73	32.47	83.31	92.38	123.04	125.71	136.80	158.77	271.33	334.74
住居費	97.52	45.63	76.57	75.98	90.29	112.00	88.34	185.93	144.42	187.49
被服費	225.59	69.20	118.07	111.05	188.03	289.95	240.00	289.53	194.17	789.05
稅金	207.71	36.01	61.87	83.40	146.58	180.54	230.54	161.12	433.54	985.74
小遣	232.39	89.55	157.60	165.83	230.00	332.05	268.00	277.07	300.00	525.68
雜費	355.14	130.02	230.77	276.50	401.14	337.76	325.60	441.81	904.00	806.46
臨時	104.09	28.60	33.31	44.44	121.42	141.03	170.00	162.91	298.13	234.32
合計	5,768.90	2,117.37	3.496.29	4,443.94	5,425.35	6,478.29	7,400.69	8,298.28	9,450.85	13,758.26

1949年6月1日 謄写印刷
1950年2月25日 印制
1950年3月7日 発行

東京都千代田區代官町1番地
編集兼発行人 労働省婦人少年局

東京都中央區入舟町2ノ3
印刷人 永井直保

印刷所 永井印刷工業株式会社

秀麗江子

女世帯（未亡人・留守家族）生活實態調査

在現日　　月　　年 23 昭和

調査についての御願い

現在の困難な社會情勢では特に未亡人、未歸還留守家族等女手で生活を支えることはむづかしいと存じます。私共はそうした方々の御希望を反映させ、少しでもお役に立つことを計畫致しまして、關係各省並びに民間各團體の御協力を得て、實行に移してゆきたいと思います。

そのためには、皆様の御家庭の實情を報告して頂だき、それを基礎資料として、あらゆる方面から研究して、充分な効果をあげたいと思いますから、正確な資料を得られますよう、特別の御協力を御願い致します。

尚、紙不足の折柄、用紙は無駄にならぬように、御願い致します。また出來るだけ　月　日までにあつめて返送して下さい。

昭和二十三年　月

勞働省
婦人少年局

記入上の注意

1、細目の書いてあるところは該當の文字を○で圍み、長いものはその頭に○をつけて下さい。
2. 數字はすべて算用數字で記入のこと。
3 すべての事項は出來るだけくわしく書いて下さい。尚細目に該當したものがない時は具體的に書込で下さい。

1. 住所　都市　區　町村
2 年齢　明治 大正　年　月　日生
3. 夫と別れた種別　死別、離婚、未歸還
4. 夫と別れた時期　大正 昭和　年　月
5. 御良人は何で死なれましたか（たとえば戰死、病死、電車事故など）
6. 未歸還の夫の居所　殘留地　不明
7. 夫の最後の職業　地位
8. 團體に入つていますか
團體名
種類（政黨、勞働組合、學校、婦人團體、未亡人團體、協同組合、合作社等）
9. 本人の健康狀態　健　結核　病弱
最近患つた病名　時期　年前　ヶ月前
不具（失明、四肢切斷等）
10. 學歷　卒　卒　卒　卒　卒
小　高　女　專　大
退　退　退　退　退
11. 特殊技能

12. 職業

イ、現在の仕事　あり　なし
ロ、本業の種類　勤勞ですか　獨立營業ですか　住込ですか
ハ、仕事の內容は（して居る仕事を細かく書いて下さい）
A　あなたは何をしていますか
B　あなたの勤先の仕事の內容は
ニ、現在の仕事をどうしてみつけましたか
ホ、いつから今の仕事をしていますか　大正 昭和　年　月
ヘ、一日何時間働きますか　時間
一週間何時間働きますか　時間
ト、過去に於ける仕事の經驗　あり　なし
チ、過去の仕事の種類
リ、仕事を持つていた時期　自　年　月　至　年　月
ヌ、何故やめましたか
ル、副業がありますか　あり　なし
オ、副業は何をしていますか

13. 住居

イ、獨立家屋の場合（長屋を含む）　自己所有　假小屋　借家　廠舍
ロ、集團生活なら　引揚者收容所　戰災寮　母子寮　寄宿舍
ハ、間借なら　アパート　部屋借
ニ、獨立家屋の場合の同居世帯數　世帯
ホ、あなたの住居の疊數　疊
ヘ、だれと共同生活をしていますか　親、兄弟、姉妹、親戚　友人、知人、他人

14. 希望

イ、仕事の希望

	仕事のある人		仕事のない人	
1) 仕事をほしいと思いますか	思う	思わない	思う	思わない
2) 現在のと別にお仕事をのぞみますか	望む	望まない	望む	望まない
3) なぜ仕事を持てませんでしたか				
4) なぜさがしませんでしたか				
5) どんな仕事を望みますか				

ロ、再婚を希望しますか　望む　望まない
ハ、あなたがたお互に助け合う組織を持ちたいと思いますか（たとえば未亡人團體の如き）
思う　思わない　わからない

15. 扶養家族	續柄	男女	生年月日	現在の健康	最近の病名	病氣の時期	不具	就學狀況	職業	收入

16. あなたが留守の間お子さんはだれがお世話をしますか

17. 御子さんを世話をする人に費用がかゝりますか　かゝる　かゝらない　18. いくら位かゝりますか　圓

19. 社會施設	近所にどんな社會施設がありますか		どんな社會施設を利用していますか 種類	經營者	それに支拂う費用は（大體一ケ月分）	現在の施設で滿足ですか	どんな社會施設を一番希望しますか
	養老院	診療所（實費）					
	感化院	傳染病院					
	乳兒院（託兒所）	療養院（結核）					
	保育所	精神病療養院					
	母子寮	產院（公立）					
	弱い子供の保護所	授產場					
	かたわの子供の保護所	簡易宿泊所					
	頭のたりない子供の保護所	引揚戰災者寮					
	浮浪兒收容所	公益質屋					
		パンパン收容所					

20. 收入（一ケ月の大體の平均全部純收入による）

イ、勤勞所得	圓
ロ、獨立營業による所得	圓
ハ、賃貸による所得 地代、家賃、間代、預金利子、年金、有價證券の配當、特殊物件の賃貸料、其他	圓
ニ、國又は公共團體の補助、國家からの扶助 民生保護による補助 民間施設による補助	（團體名を書いて下さい） 圓
ホ、親戚知人の補助仕送りの形式 共同生活の形式（現金に換算）	圓
ヘ、資產處分による預金引出、賣却、負債、物交（時價評價額）	圓
ト、食事付住込み（現金に換算）	圓
合計	圓

21. 貯金（一ケ月分）

貯金	圓
積立貯金	圓
郵便年金	圓
生命保險	圓
合計	圓

22. 支出（一ケ月の大體の平均經常費）

	配給	追加
主食	圓	圓
副食		
調味料		
嗜好品		
燃料（薪炭等）		
ガス		圓
水道		
電燈		
衞生費		
教育費		
文化娛樂費		
住居費（含修繕）		
被服費		
稅金		
小使		
雜費		
臨時		
合計		

23. いま一番困つている事は何ですか

24. 他に御希望がありましたら何でも書いて下さい。